

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ4月-

～早春の自然観察と巣箱づくりに挑戦～

今年度最初のイベントは4月28日(日)の「早春の自然観察と巣箱作りに挑戦」でした。27日から始まった大型連休にもかかわらず、多くの参加者でにぎわいました。

当日は天候にも恵まれ、園内の自然観察会では、「カタクリ」や「ニリンソウ」など早春の野草を見ることができ、講師の説明に熱心に聞き入っていました。家族での参加も多く、子供た



〈園内の散策〉

ちは初めて見る「ウバユリ」の葉などに興味津々のようでした。一休みしてから、いよいよ巣箱作りに挑戦です。



〈お母さんも応援!!〉

子供たちから年配のおじいさんまで、いっせいに「ノコギリ」と「金づち」を使って巣箱作りがスタートしました。初めて道具を使う子供たちも、コツを覚えるとたちまち上手に使えるようになりました。持ち帰った巣箱に小鳥が来ることを願っています。

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大家さんのコーナーです

“鳥の季節”

①柳の若芽を食べるコガラです。やわらかい日差しの中、時折、優雅なホバリングを見せてくれました。

②一緒にいたキクイタダキです。旅鳥でほんの数日しか見られません。4年ぶりです。頭に菊の花の一片を載せています。10cm、体重は5gぐらいでミソサザイとともに日本で最小の鳥です。

③真冬のヤマガラです。コブシの実にありついてホットした表情に見えます。(大友)



〈①コガラ〉



〈②キクイタダキ〉



〈③ヤマガラ〉

生き物いろいろ



山のごとなら
何でもプロ級、
サポーターの
☺さんの
コーナーです

～身近にいる小さな虫たち～

“早く出せば…”

昨日から「バサバサ」の音が。昨秋、落葉に付いていた毛虫が、目の前で繭を作ったので成虫見たさにビニール袋に入れて物置小屋に置いていた。袋の中の音は羽化した蛾だった。翅はずいぶん傷ついていた。「アカヒゲドクガ」でドクガの仲間だ。

ドクガ科の成虫は口が退化して、羽化後はひたすら交尾の相手を探して飛び回って短い一生を終えるという。

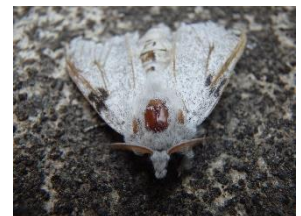
そんな生き様を思うとドクガであろうが、もっと早く外に出してあげればと反省をした。(は)



〈①毛むくじらの幼虫〉



〈②繭は自らの体毛で作る〉



〈③成虫を正面から〉

まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

花より梅干し?・・・ ～ウメ(バラ科)～

初春にサクラより早く咲くウメの花は、特別な趣きがあるようです。ウメは中国原産で、中国では古代から貴族の花として歌や絵画の題材に取り上げられています。日本で初めてウメが登場するのは、奈良時代中期(759年)に完成した「万葉集」です。中国文化に傾倒していた当時の貴族は、競ってウメの木を植え、ウメを愛でて歌をつくりました。「万葉集」では、堂々第二位の118首がウメを取り上げています。一位はハギ(141首)で、サクラは第五位(40首)です。恐らく中国の貴族以上に奈良時代の貴族たちはウメに熱中したと思われる。平安時代になっても同様に、菅原道真の「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花・・・」の歌がこれを物語っています。

さて、こんな貴族的で高尚なウメですが庶民のものとなったのは戦国時代を経てからです。それは花ではなく実から作る「梅干し」の需要が増大したためでした。つまり、合戦の時の保存食、塩分補給のため「梅干し」が注目され、戦国武将は梅の植林をはかり梅林が各地に生まれ、梅干しづくりが奨励されました。「花より梅干し」の時代ということでしょうか・・・(千葉)



〈ウメの「実」〉

科学館情報

リニューアルは?

昨年度末より始まったリニューアル工事で、屋根や外壁の塗装、木部の補修などに加え、建物内部の改装も行いました。照明をすべてLEDにして館内を明るくし、また、館内のトイレ設備も洋式化して使いやすくしました。その他「ネイチャークラフトコーナー」の机も増設して、大人数の団体にも対応できるようにしました。是非、ご来館の上、リニューアルを実感していただきたいと思います。